

第2回 天草市学校規模適正化審議会会議録

1 期 日	平成20年10月2日(月)午後2時1分～午後3時49分
2 会 場	天草市民センター大会議室
3 出席の状況	<p>(1)審議会委員 20人 石橋委員、土佐委員、龍石委員、原田委員、藤川委員、前田委員、本多委員、高辻委員、瀬川委員、松村委員、益崎委員、尾田委員、梅田委員、山田委員、永野委員、村端委員、杉山委員、金澤委員、井上委員、角中委員</p> <p>(2)欠席者 5人 森委員、牧田委員、益田委員、大久保委員、金子委員</p> <p>(3)出席した事務局職員 7人 岡部教育長、嶺教育部長、川崎教育指導課長、坂本学校教育課長、武部同課課長補佐、山名同課教育企画係長、小川同課主任</p>
4 傍聴者	なし
5 議事の内容	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 前回会議の会議録の承認について</p> <p>4 議 事</p> <p>(1)本市教育の現状について(前回会議で提供要望のあった資料等)</p> <p>(2)学校統合の効果・検証</p> <p>(3)学校規模適正化への教育委員会の考え方について</p> <p>(4)次回会議について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
6 配布資料	<p>(1)次第</p> <p>(2)第1回会議録の6ページ(差し替え分)</p> <p>(3)資料4-5 「3 学校別の児童生徒と学級数の推移」(差し替え分)</p> <p>(4)部活動の実施状況 資料1</p> <p>(5)教育予算の状況 資料2</p> <p>(6)平成42年度までの児童生徒数・学級数の推計(学校別) 資料3</p> <p>(7)学校間の距離調査 資料4</p> <p>(8)学校統合の結果について 資料5</p> <p>(9)学校規模適正化への基本的な考え方について 資料6</p>

	(10)平成32年・37年・42年の児童生徒数の予測値と予測の方法について 資料3の説明資料 (11)幼稚園及び学校の位置図 (12)山鹿市教育委員会広報「ゆめーる」 (13)教育委員会だより(10月1日号市政だより)コピー
7 議事録作成者	学校教育課教育企画係 山名 直
8 記録の方法	発言者の要点記録、録音機

会議記録

[司会(学校教育課長)] 時間がまいつているので開会したい。一部の方が若干遅れられているが、4名の方から欠席届が出ている。天草市学校規模適正化審議会条例第6条第3項により過半数の出席であることを報告する。ただいまから、第2回天草市学校規模適正化審議会の開始をお願いする。

[会長] みなさまご苦労さまでございます。今日は第2回目の会議である。先週、県立大学の「オープニングシンポジウム 地方分権時代における地域教育」というテーマであった。合併自治体の統廃合問題を議論した。小国町と和水町が発表。聞いてみると地元の方の苦しさもあり、子どもたちにとって期待や楽しさもあり、理解を得ながら進んだ事例が発表された。

私も参加した小国町では、6つの小学校を1つにするということであったが、天草の場合は小中学校は60程あったようであるが、小国町等のようにはいかないのでは。そういったことを議論いただきながら、天草市は天草らしい適正規模を考えていきたい。前回と同じように遠慮なく発言してほしい。

[議長] それでは、「前回の会議録の承認について」これは。

[事務局] 今回の会議開催の案内の際に前回会議録を同封していたが、原田委員から申し出があった。6ページの上から16行目を7人が73人の誤りであり修正した。この場でほかにあれば出してほしい。

[議長] その修正はいいですね。ほかになにか議事録の修正あるか。なければ、議事の第1の「天草市教育の現状について」であるが、これは、前回みなさんからこのようなことを調べてほしいということの報告である。

[事務局] 資料4-5は、前回配付したが一部に空白があったので、今回埋めて配付するもの。次ぎに、資料1は部活動がどうなっているのかの要望があった。1ページに小学校を、2ページに中学校をまとめた。

3ページは、教育関係の予算がどうなっているかとの質問があった。まず、平成20年度の一般会計の予算であるが494億6千7百万で、そのうち49億6千7百万円で10%をしめて

いる。その下が、教育費の内訳である。4ページであるが、合併した後の平成18・19・20年度の予算総額を比較したもの。数値の増減は、平成19年度の牛深給食センター建設分、平成20年度の本渡統合中学校分である。

5ページは、学校別の経費がどれくらいかかっているかを調査したもの。児童生徒数の多少や機械の委託等によって違っている。

7ページは、今後20年・30年先の予測はできないのかとのことであつたので、予測をしたもの。それをどのように予測したかを、本日配付の資料の「平成32年・37年・42年の児童生徒数の予測値と予測の方法について」を用い、有明町を例にして説明したい。天草市が総合計画等を策定する際に、コーホート法により平成42年まで予測ができていた。これを基に、平成20年度の年齢別人口の割合から平成32年・37年・42年を予測した。このような方法から7ページにあるとおり学校別の予測を行った。あくまでも予測であるが、20年・30年先はどうなるのかとのことであつたので予測した。参考にしてほしい。

8ページであるが、学校間の距離を示している。学校と学校の距離を、最寄りの学校間の距離を示している。

9ページは、前回に学校統合でどのような効果があつたのかとの話があつた。天草管内で、牛深中と牛深東中が生徒にアンケートをとつてあつたので示したもの。本渡東中の金子委員は欠席であるが、当時の牛深東中の校長であつたので機会があれば補足をいただけるものと思う。

次に本年4月に倉岳3小が統合して倉岳小学校となつた。その校長先生が村端委員あるので報告をお願いしたい。

[委員] 倉岳小の村端です。現在の倉岳小のようすを話したい。現在の児童数は160人、学級数は8クラスうち特別支援学級が2クラス。児童数の多いクラスは6年で31人、少ないのは3年で23人。職員数は、校長、教頭、教諭9人、養護教諭、事務職員、主事、学習指導補助教員の全部で15人。校舎は旧棚底小を使っている。

半年過ぎた9月下旬に6年生にアンケートをとつた。「学校が統合してよかったと思うか」の問いに、「よかった」25人、「どちらかというよかった」3人、「どちらかという悪かった」1人、「悪かった」はゼロ。次に「統合してよかったことはどんなことですか」の質問に対して、「友達が増えてみんなと遊べる」26人、「人数が多いのでにぎやかで楽しい」11人、「いろいろなことを話すことができる」4人、「人数が多いのでいろいろなことができる」4人、「授業でいろいろな人の意見を聞くことができる」3人、これは複数回答である。「友だちが増えていろいろな事ができて楽しい」との意見が多かつた。6年の担任は、自分の意見を述べさせることに力をいれており、子どもが感じていることとアンケート結果は同じであつた。

次に「統合してよくなかつたことはどのようなことですか」ときくと、「男子に馬鹿にされた」「時々無視される」「グループができる」「1対1で教えて貰えない」「意見があわない」等で、それぞれ1人ずつの回答であつた。これらは人数が多くなつたことによる弊害と思う。毎月「なかよしアンケート」を実施し、子どもの訴えに対して必ず担任が話を聞くことで対応している。

最後に、心配していたことが2点ある。1つ目に登下校の安全。スクールバスを利用する児童が、旧浦小・旧宮田小で約6割であり、乗り方の決まり・座席の配置等は統合前の学校できちんと指導されていた。新学期が始まり1週間は職員が毎日乗り込み、その後の4月は週に1回、現在は2週間に1度職員が乗り気づきを指導している。保護者や地域等で見守り隊をつくってもらっている。今後何がおこるか分からないが、登下校の安全については配慮していきたい。

2点目は、学校での生活、学校が楽しいかどうか、学校に適應できない子どもがいないのかが心配であった。7月に保護者アンケートをとった、学期に1回とることとしている。20項目のうち、「子どもは学校に行くことを楽しみにしているか」と質問した。これに対して、「楽しく行っていると思う」が67%、「だいたいそう思う」が27%、「あまりそう思わない」が4%。「楽しそうでない」が1%。私たちは、子どもたちが学校が楽しいものとなるように努力しているところである。

[議長] 先生の報告については、あとで質問したい。事務局からの資料の説明は済みか。

[事務局] カラーの図面をつけているが、これは、幼稚園・小中学校の位置図である。もう一つは、市政だより10月1日号をご覧いただいたと思うが、学校規模適正化の記事を載せた。配付したのはコピーであるが、見ていない方は読んでいただきたい。

[議長] 説明があつたが質問はないか。

[委員] 小規模校はどういった点がいいという資料は。

[議長] それは、このアンケートの内容が回答か。

[事務局] 本日配付した資料のページ19があるが、「小規模校の利点・問題点」としてまとめている。

[議長] いかがでしょうか。県立大学のシンポジウムにはこういう問題に関わっている70人くらいの参加があつたが、「複式学級でなぜいけないのか」との質問を受けた。私は複式学級の出身、10人しかいなかったので10番以下になったことはない。「お山の大将」の一面もあつた。それから2000人の帯山中学校に転校しうったまげた。みんな頭が良さそうに見える。萎縮してしまう。どれくらい的人数が適正規模かは別として、人数が少なければ教育効果が上がらないのではと申し上げた。

[副会長] いま会長が言われるように、9月26日のシンポジウムに参加した。感じたことを話したい。教育は国が全国一律的な教育行政を行っているが、これからの地方分権時代には地方が考え、地域の特性を生かし地域でしかできないことを教育推進計画としてつくることが重要という話であった。

地域の問題は小国町・和水町もどこも同じであるが、少子高齢化のなか市町合併がなされ、地域の教育を取り巻く環境は大きく変化している。そのなかで、小・中学校の統廃合や複式学級、学校運営等に対して、地域住民の関心は高まりつつある。

複式学級については、グローバル化の中で豊かな人間性の育成は最重要と考える。一定

以上の人数が必要であるとし、お互いに切磋たくまし自らが培っていくものであり、人付き合いの上手下手はその人の人生を左右することがある。(複式学級での)学力は、個々の指導が行き届き学力アップは期待できるが、反面自習時間も多いため、教員の校務分掌も多くなり教員の能力に応じた学習指導ができないので差が出てくる。このような提起がされた。

小中学校の統合についてであるが、複式学級の解消を目指すというならば、一定の児童生徒数を確保するとすれば統合は避けて通れない。そこで、過小規模校の多い天草では、過小規模校の解消は急務ではないのか、個人としては思う。

シンポジウムのまとめで考えことは、天草市として地域教育力を考えるならば、確かな学力の確立、豊かな人間性の育成、環境教育の充実など、天草市の教育の理念とするなら、複式学級の解消や統廃合については、この審議会はそれを足場にすべきではと思う。

第1回の会議で議論があったが、よその地区のことはよく分からないのでブロック別にわけたらという話があった。その時はいい案と思っていたが、シンポジウムに参加すると、天草は1つとしてマクロ的な考え方も必要と思う。他の地区の動向もお互いに情報を交換し理解を深めながら、方針にむけ努力するのがこの審議会の努めではないかと思う。結果的に統廃合が実を結べば地域的な考え方もでてくる。御領小と宮地岳小が統合するわけにはいらないが、地域地域の狭い考え方でなくて全市的な考え方をもって、結果的にそうなったというのは意味が違うと思う。小国町や和水町等もそういうところを非常に苦労され、そこを痛みとして通ってきたとの報告があった。

小中一貫教育という言葉が出ていたが、例えば4小学校と1中学校がある場合に、4小学校が統合し中学校と同じ敷地に新築されるとする。グラウンドの表と裏になる場合、中学校の理科の専門の先生が、小・中学校共に教えるのが一貫教育なのか。あるいは、英語を小学校低学年から教えさらに中学校につなげていくのが、小中一環教育というのか。そこらへんがよく分からなかった、先生どうでしょう。それくらいのまとめであった。

[議長] 小国町の場合、6つの小学校の統合により5つの小学校がなくなるが、なくなるだけでは寂しい、しょうがないとの消極的な気持ちで賛成する。この機会になにか独特の学校を進めるとなった。十数年前に私は熊本で最初の「中高一貫教育」を立ち上げ、最初が天草西高校と小国高校であった。この中高一貫教育は小中一貫教育とは少し違う。高校入試があるが、中高一貫では入試の緩和があり、面接や作文だけとかの恩典をもっている。

ところが小中一貫教育の目的は入試の緩和ではない。例えば、中学校の理科のベテラン教員が週に1回小学校を教える、子どもは理科に興味をもつかも知れない。あるいは、小学校の先生が中学校でも教える。クラブ活動も人員が少ないので、中学校のお兄ちゃんと一緒にして強くなるかもしれない、そういうやり方の学校のことである。

小国では、国際化の時代であるので、英語教育に力をいれ英語の先生を中学校から来て貰うとか、別に配置してもらうとかする。そうすると、単なる統廃合でなく希望がもて発展的なものとなる。そういったかたちでやりたいということで、小中一貫教育となった。小中一貫教育はいろいろあるので、天草市でも地域の特色を生かせることを考えた方がいい。

それを兼ね併せてやればと思う。やり方はいろいろ、そうすればわくわくするのは。

[委員] 倉岳出身であるが、ほとんどの保護者は統合に賛成であり、ただ自分の地区から学校がなくなることが寂しい。統合で特色が出るようなことをしたら大半は賛成ではと思う。親がガタガタ賛成や反対したら、こどもに絶対影響する。

[議長] ここに学校があったのに、朝から子どもの声が聞こえたのが聞こえないのが寂しいという。だから、小国の場合は例えば文化祭はここでやる、体育祭はここでやれということを提言して、人数が多いのでできるかは別として、そういう方法を考えなさいといった。そうすれば、子どもの声が聞こえ地域のみなさんも安心するのではと考えたところである。

[委員] 鬼池出身であるが、鬼池小学校では年間を通じてこっぴもちづくりとかオカリナ演奏をやっている。そこには地域の人や老人会等も参加し老人たちは生き生きしている。学校がなくなれば、地域に活気がなくなるのではと思う。

新本渡中学校のことであるが、あまりにもマンモス校となるのではと思うが、赤崎と浦和の統合であるが、赤崎小はもともと有明の東地区であり、浦和は西地区。なぜ西地区の学校と東区域の浦和が統合することとなったのかと思う。

[議長] 巨大校ができるのか。

[事務局] 新本渡中学校のことであるが、旧本渡市の時代の学校規模適正化計画のなかで、本渡中・本町中・佐伊津中が統合するもので、平成22年に800名くらいで1学年7クラス程度となる新しい本渡中が誕生することとなった。校舎も大矢崎地区に新築する。その名称も3中校区の生徒などの中から公募で選考した。

赤崎小については、位置的にはお話のとおりであるが、天草で最初の鉄筋づくりで地域住民が村有林を切り経費を出してつくった学校である。校舎が老朽化し50人位で複式学級があり、今後とも児童数が少なくなることから統合したいとの保護者の動きがあった。統合して単式学級にできないかと旧有明町の時にも相談してきた。浦和小と大楠小の中間にあるが、何回も相談しともかく統合しようとなり、保護者が相談して浦和小と決めて、浦和小やその地区にも相談し浦和小と統合することとなった。結果としては、名称も、赤崎小が浦和小に入るようなこととなる。

[議長] 適正化といえば小学校はだいたい3クラスから4クラス、中学校もそうであるが。複式学級をどうするのか、児童数の少ない小学校の課題は大きいようだ。

[委員] 部活動の調査はありがたかった。なぜ調査を願ったかという、小さい学校では自分の好きな部活動ができないので学校に要望したがだめだった。だからどれくらいいれば自分の好きな部活ができるのかと知りたかった。

栖本小は150人の1学年1クラスであり私はそれでいいと思っていたが、1度入学するとクラスが動かないので小学校6年間・中学校3年間の9年間ずーと一緒。それはかなり厳しい。できれば2クラスあるのがいいのかなと思っている。成績などで固定化されてしまい、レッテルを貼られることになる。このレッテルはいじめの対象にもなり、それをなくすためには2クラ

スあり、時々クラス替えがあるのがいいのでは。

[議長] ほかにどうぞ。

[委員] 私はこれから小学校に子どもを入学させるが、通学の安全が一番心配である。スクールバスを小学校では特に出して貰えるのかかが気になる。有明の中学校には今はスクールバスが出ているが、予算がない等いろいろ聞かすが、本当かどうかはわからないが。子どもが安全に学校に行けて楽しく学校生活を送れるのが一番いい。この先教育予算がうまくかみあっていくのか心配である。

[事務局] 赤崎小は浦和から6キロほどあり、スクールバスで通学することとなる。朝は1便で、帰りは部活をするかしないかで、だいたい小学校で2便中学校で3便である。スクールバスの停留所等は関係者で協議して一番都合のいい場所等を検討し決めることとなる。

[議長] 小国では、山奥や谷間に家があるのでスクールバス3台が必要であった。通学の安全についてはこの審議会でも検討することとなる。

[委員] 深海中から統合時に牛深中に赴任した。資料の集計結果から生徒も統合してよかったとのことである。私たちが学校で一番感じるのはスクールバスのことである。学校の時間に合わせて出してもらえそうな感じがするが、中学校では小学校と同じバスに乗る便もある。小学校にも中学校にもあわせて、学校活動の時間はとても制約されることになる。それが学校として感じることである。バスの時間は決まっており、今日残って活動したいとしても思うようにできない。スクールバスについては、もう少し学校の中でうまく活用できるような時間設定をして貰えればと思っている。何かする時は、常にバスの時間を気にしなければならない。

[議長] 全ての個人の要求を満たすことはできないだろうが、17時10分しかないというのものもあるかもしれないが。

[事務局] 牛深の中学校のスクールバスは、小学校と同じバスに乗るのでそのようなことがある。ほかのところは、小学校、中学校それぞれである。小学校と中学校の時間の調整が難しいところもあるが、調整しうまくできればと思う。

[委員] スクールバスについては、バス停も必要。雨の日は傘を差してバスを待っている。バス停もバスと一緒に考えてもらい設置してほしいと保護者の話である。教育委員会に言ったらバスとバス停は別であるとのこと、保護者が自らつくろうとしている。

[議長] バス停は産交のバス停か。

[委員] スクールバスのバス停だ。雨よけ・風よけのために簡易的のを置いてほしい、ここがバス停とわかるものを置いておければと思う。

[委員] スクールバスを利用する子どもは、毎年変わるのでバス停も換えている。固定的なものであると動かせない、なるべく子どもの状況に応じて場所を換えられるものとしている。

[委員] だから、魚礁のようなものならすぐ動かせる。それがあれば安全につながるのではと思う。

[議長] ほかにどうぞ。

[委員] 牛深中の統合アンケートの中で、「日曜日に部活動ができない」「夏休みにプールがな

くなった」とあるがこれは、バスが出ないから(プールが)なくなったのかどうか分からないが、夏休みはどれくらいバスが出るのか、全然出ないというわけではないと思うが。

[委員] 日曜日は原則としてスクールバスは出ない。夏休みにはプールがなくなったというのは、プールを利用する子どもたち自体が少ないということもある。スクールバスは朝と昼に1便で、小学生と同じ便で帰ることもある。午前中に学習会等があればプールを使わないこともある。だから、プール使用がなくなったということでは。

[委員] 夏休みのプールは、学校から借りて保護者が監視している。監視員を雇えないと使用できない。学校の夏休み期間中のプール解放は、だれか監視員がいないとできないとしており、多分このことからではと思う。小学校の場合には、スクールバスに乗ってプールに来る子もいる。

[事務局] スクールバスの運行については、学校が年間行事計画を立て提出してもらう。その都度その都度運行するとはいかない。委託契約しているので年間の運行回数等を把握する必要があるが、基本的には学校の計画による。野球の練習試合等には、基本的にはスクールバスは運行していない。帰りの便は時間を決めないといけない、個人の都合で部活が終わるまでまってほしい等の要望には対応できない。一定のルールは決めている。自宅から学校の玄関までスクールバスで行けるという感覚ではない。どこのバス停でだれが乗り降りするのか把握し、乗せなかったこと等がないように業者と学校も打ち合わせをしてもらっている。

[議長] バスの運行は後で具体的に議論しよう。少なくとも、いままで歩いて10分であったのが(統合したことで)バスに乗らなければならなくなったという不満だけはないようにしないといけない。

[委員] 小規模校になっているのは、市町合併を契機に、市職員が本渡に出てきた。今年もあと1名いたら50人になっていたが、それぞれの生活もあろうが市職員が帰って来てくれるのがいいが。

[議長] ほかにどうぞ。

[副会長] 審議会で答申しパブリックコメントや住民説明会を行った場合、シンポジウムの和水町や小国町でもそうであったが、住民の関心は過小規模校である。天草でパブリックコメント等を行った場合、住民の関心があるのだろうか。この時点では分からないだろうが感じとしてどうなのか。これは大事なことだと思うが。

[事務局] 10月1日号の市政だよりでも載せたが、すでに統合している牛深、倉岳、有明や中学校が統合した河浦などもあり、関心があると思っている。この会議の公表等により、それぞれの地域で住民の関心を起こさせる必要があると思っている。

[委員] 新和町では、数年前に4小学校が統合し現在2つの小学校になっている。統合を進めるにあたっては、老人には小学校がなくなり声が聞こえないのは寂しいとの声もあった。最終的には、子どものためなら統合して部活もできるような学校に通わせた方がいいとのことで納

得してもらった。旧学校は空き校舎として残っており、統合前も地域と小学校が一緒にやっていたが、いまま地域の運動会はその旧小学校の校庭でやっている。

[議長] 小国の場合も、9人しかいない学校もあり早くしてやらないとかわいそうだと意見もあった。多くの方は仕方ないとの思いであるが、残った校舎や地域をどうするのか考えてくれとの意見は出てくると思う。多分天草もそうだろうと思う。

[委員] もう一度確認したいが、この審議会は具体的にどこどこの学校が統合ということまではいかないということでもいいのか。どういう規模が天草市として一番適正なのかを話す場であったと思うが。具体的にどこどこが統合し新しい学校をつくらうということは、再編計画ですと理解しているが。それは、審議会が済んだあとにされることと理解していいのか。

[議長] 市からの諮問は、基本的な方針及びその具体的な方策を示しなさいと書いてある。具体的に、なにになにに小学校となになにに小学校を統合する それが具体的かは分からないが そのやり方までは、書いてくれとのことだ。

[委員] 具体的にどこどこが統合して新しい学校をつくった方がいいと述べるのか。

[議長] そこはみなさんと相談して決める。適正規模が決まれば、あるいは旧市町まで考えても例えば、大体の結論が出ると思う。書き方の問題。具体的な方策まで要求されているので、どこまでが具体的ものかはわからないが、どこどこが統合するのは事務局に任せる方法もあるし、事務局が具体的に書いてくれと要請しみなさんがいいと言えば書いていいだろう。それは議論しましょう。

[委員] 2回目の会議の前に、市報に出たので市民には関心があるようだ。市民から電話もあったので、関心はあると思う。(市広報)4ページに現在の過少規模校から大規模校まで、また26年度も示してある。

子どもの学習環境のため、過小規模から小規模校に移した方がいいのか。小規模校から適正規模校にもっていくのがいいのか。そういったものを私たちが持って進めないと、これを眺めてみてどうなのかと言っても答にならない。メリットをお互い心に持ちながら進めていくというのが1つ、もうひとつは、2市8町が合併して同規模の市で小規模校や適正規模校は何校くらいあるのか、調べてみる価値はあるのではと思う。

[議長] 少なくとも次回までには、基本的な考え方だけは共通認識をもっていないいつまでも前後する。基本的な考え方については、事務局が提案する。例えば、少なくとも複式学級の解消を目指すとか。そういうことについては、みなさん納得されるならそれでいいと思う。あるいは、今日の資料の7ページの表の平成42年度では適正規模校は2校ある。42年度を目指して議論すれば相当大きなものとなるが、少なくとも26年度はこういう規模になるので、あまりにも小さい学校は統合したらどうかで議論することで変わってくる。現実問題として平成26年度を想定して統廃合する、そういうものをいくつか提案して進めていきたい。その方向でいいでしょうか。26年度でいいか。それをやってもその20年後はこうなるよと言われてもそのとおりであるが、その時は次の審議会で検討してもらおうこととしたい。あるいは、旧市町のなかでも大きいところと小さいところがあり、ここから見れば中学校1つで少ない、しかしこ

に合わせればこうこうということになり、旧市町の枠内でいくのかをまず決めてもらう。それから統廃合になった場合、具体的な問題としてスクールバスの問題もある。

基本的な考え方だけは共有したいと思う。何か具体的に書いたものがないとそれは大まかなものであるが、今日配って次回までに意見を賜り、基本的な考え方を次回には決めその後具体的な問題としたい。

具体的な原案を配りたい。たたき台がないと議論できない。持ち帰ってもらい次回やりたい。これは要らないとか、加えるべきだとかは次回までに考えてきてほしい。参考がなければ議論しにくいだろうから。(事務局が資料6を配付する)

中学校は後にしよう。小学校が救急であるから。もし、小学校を統廃合する場合に、旧市町ごととは(資料6の)4番である。中学校区は1つしかないところは1つ、2つあるのは2つと考えていいか。(事務局「はい」)表現の方法も換えるところがあれば検討してほしい。

[委員] 現時点で赤崎小以外に統合の話はないのか。(事務局「ない」)

[議長] 統合によって教育効果が上がるような方を講じるとか……

[委員] 赤崎小の耐震のことについては。

[事務局] 赤崎小は(昭和)30年に建築され50有余年たっているの、その点も統合の要因の1つであったと思う。複式学級の解消が主要な原因と聞いている。

[事務局] 学校施設の耐震化の話もあったところ。耐震化を図る前に、耐震力のある施設がどれほどあるのかを調べる調査 いわゆる耐震化調査を、昭和57年以降につくられた施設や既に耐震化整備を終わった施設を除き、今年度と来年度にかけ実施する。この調査が終わってから「耐震化推進計画」を定め、どのようにすすめるのかを決めたい。ただし、診断の結果、耐震性の指標 IS値というが0.3以下、すなわち、危険性が高いというものは3年後を目途に対策を講じていきたい。全ての施設の耐震化は平成27年度を目標に進めたいと考えている。

[副会長] 小中一貫校もいれた方がいいのではないか。

[議長] (資料6の)9番として新しい特色ある学校をつくっていくとの文章を提案するのもいい。特色を出す教育のために住民は痛みを伴い協力してくれたのだから、どうかかたちになるのかは分からないが、それは考慮してくれるだろうと思う。それは本来の統廃合の姿である。

表現も硬い感じがするし、夢のある9番10番を発表してほしい。そういうのがあれば、具体的にはスクールバスの運行であるとか 出してほしい。

次回の日程であるが。

[事務局] 11月5日の水曜日、時間はいつものとおり午後2時からとしたい。

[議長] 12月は。

[事務局] 12月も5日の金曜日としたい。

[議長] 3月までということであるが、3月までには何らかのかたちをつくりたい。次回に出してほしい資料などはないか。ほかのところの基本的な考え方を出しているところがあると思う、参考になると思うが。状況を調べるのも1つの案かも。

[事務局] 考え方についての参考資料として本日配付の資料について説明する。19ページには、過小規模・小規模校の利点と問題点を書いた。次ぎには、山鹿市の審議会での基本方針を決めた資料である。

[議長] 山鹿市の資料はこれだけか、あまりに簡単すぎる。

[事務局] 基本的な考え方を資料にしている。

[議長] これより、もっと詳しく知らせてほしい。

[委員] 会議は3月まで終わるのか。

[事務局] 6回の会議を行い3月までに答申をいただきたいと思うが、検討の進捗にもよるが2月くらいまでとなるのでは。

[委員] 5月のパブリックコメントなどについては委員に知らせてもらえるのか。

[事務局] 市政だよりも掲載する等により知らせたい。

[委員] スクールバスの経費はどれくらいなのか具体的な数値を知りたい。というのは、天草市は産交バスへ2億2千万円ほど助成している。このスクールバスをうまく運用できれば、例えば、保育園バスの空いたあいた時間に幼稚園児を送迎するとかの方法もあると思う。バスの利用状況がわかれば使う方向も検討できるのではと思う。

[議長] 実施しているところの経費を調べれば分かる。運転手の雇用形態や運行の時間等も、具体的になれば出して検討する。

[委員] 統合を経費節減のための統合と思っている人が結構いる。教育の観点からの統合であるとの方向に向け直さないといけない。

[議長] 小国でも「そういうこと(財政面からの統合ではないこと)は絶対はない」と答弁していた。(会議が)あと4回ということは毎月ということ。よろしくお願ひしたい。

第2回の適正化審議会をこれで終わりたい。ご苦労さまでした。